

JIS 青銅合金
鑄造用地金JIS H 2202
日本工業規格表示工場
製造元
ミカゲ金属工業(株)三重県安芸郡安濃町字日暮2222-2
電話 059-268-2206(代)
FAX 059-268-1949販売元
ミカゲ金属株式会社大阪本部
大阪市中央区博労町3-6-7 三都ビル2階
電話 06-6244-3115(代)
FAX 06-6244-3116東大阪倉庫
東大阪市長堂3-11-20
電話 06-6782-3115(代)
FAX 06-6782-3143並銅・下銅
真鍮ドライ粉
アルミ・ステンレス

現金買入れ

新賀金属

八尾市太田新町7丁目24

電話 072-949-9750
FAX 072-949-9462

日刊メタルレポート

株式会社 日刊金属新聞社

発行人 小林 恒甫

本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表

購読料 半カ年44,100円(前納) 3カ月22,050円

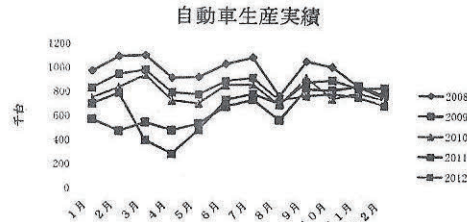
◆自動車生産台数

	10月	11月	12月
生産台数	79万2166台	76万7601台	70万2285台
前年比	-12.4%	-8.4%	-17.2%

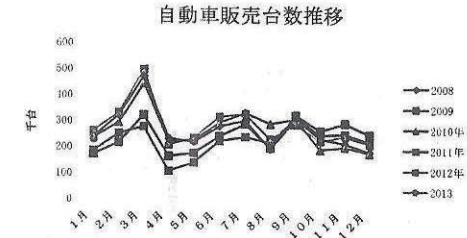
◆自動車販売台数

	11月	12月	1月
販売台数	24万3974台	21万4429台	22万9333台
前年比	-3.3%	-3.4%	-12.9%

自動車生産台数



自動車販売台数推移



◆前月の経済指標
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一七・二%減の七〇万二、二八五台であった。

◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一二・九%減の二二万九、三三三台。

〇面へ続く

【概況】一月前半は米FOMCでの資産買い取りプログラムが年内の早い時期で終了するなどの観測や、失業保険申請件数が三七・二万件と予測の三六万件を上回るなどのマイナス材料があったが、アルコアから始まる米主要企業決算でアルコアの決算が予測ほど悪くなかった事に伴う米株式全体への安心感や米財政の崖回避法案(年収三、九〇〇万以下への減税維持、自動歳出削減の二カ月先送り)の可決を好感、LME銅相場は八、〇三〇ドル(セツル)と十二月最終価格より一六〇ドル上げての前半相場となった。

後半は一三年の世界銀行発表の世界成長率がプラス三%からプラス二・四%へ下方修正された事や、米の中古住宅販売件数や週間失業保険申請件数がさえない事など悪材料もあったが、米債務上限引き上げ法案(五月末まで)が可決された事やFOMCで改めて債権買取プログラム継続を確認した事を好感し、二月四日現在、前半締めから一三〇ドル上昇の八、一六〇ドル、建値七九万円のスタートとなった。

住宅着工戸数は二ケタ増加

橋本金属 橋本健一郎氏リポート①

自動車生産、販売とも二ケタ減

輸出は電気銅、スクラップともニケタ増

伸銅品生産、電線出荷とも減少

(二面より続く)

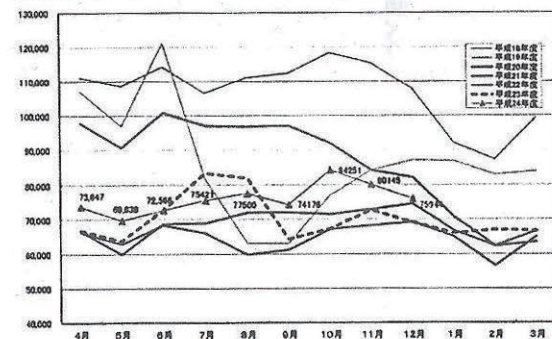
◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一〇％増の七万五、九四四戸であった。

◆新設住宅着工戸数

	10月	11月	12月
新設住宅着工戸数	8万4261戸	8万145戸	7万5944戸
前年比	+25.2%	+10.3%	+10%

新設住宅着工件数推移



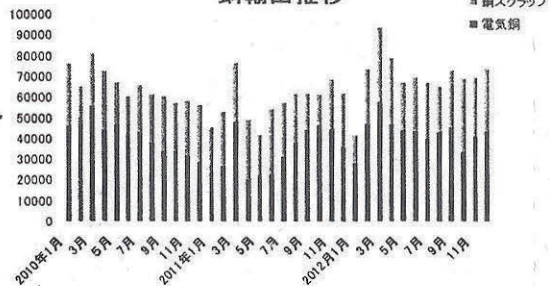
出典 国土交通省統計

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が二〇・四％増の四万三、四〇七t、スクラップが一六％増の二万九、七八八t。

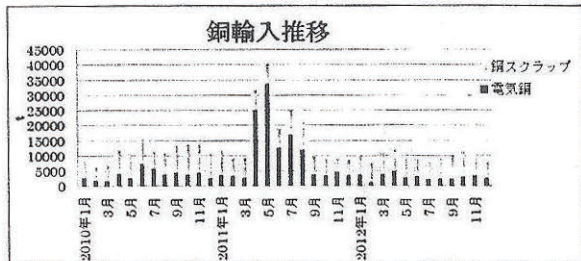
輸出	10月	11月	12月
電気銅	3万3309t	4万0921t	43407t
前年比	-28.2%	-8.1%	+20.4%
スクラップ	3万5872t	2万8424t	2万9788t
前年比	+144.6%	+19%	+16%
輸出推移			

銅輸出推移



輸入	10月	11月	12月
電気銅	3097t	3344t	2600t
前年比	-8.8%	-28.1%	-28.7%
スクラップ	8141t	7321t	5359t
前年比	+45.8%	+57.0%	+4.8%
輸入推移			

銅輸入推移

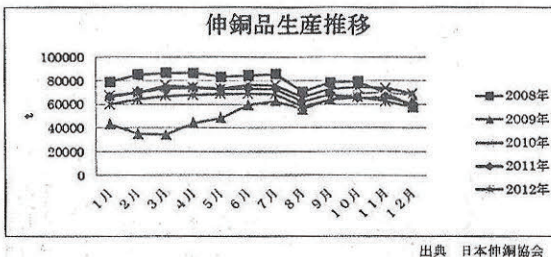


出典 財務省 貿易統計

【前月の国内指標】

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、十二月の伸銅品生産合計量は前年比五・五％減の五万七、一二〇t。

伸銅品生産推移



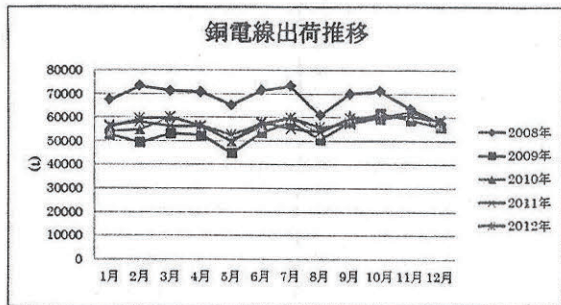
出典 日本伸銅協会

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、十二月の電線出荷は前年比一・二％減の五万八千tであった。(六面に続く)

三月決算控え伸銅メーカー買い気薄

伸銅上値は八、三〇〇ドル付近か

(二面より続く)



【見通し】

一月は、米財政の崖問題（減税の終了と自動車輸出削減が同時に起こり米個人消費・経済に悪影響を与える）に関して五月末日まで延長法案が可決されたため、一旦は危機は遠のいたものの今後の動向に注視。

自動車生産は前年比一七・二％減とついに二桁悪化、販売の方も一二・九％減とまだまだ減少基調。

住宅関連は先月に続き三カ月連続二ケタ増加の前年比一〇％増（季節調整済み前月比は二・九％減）の七万五、九四四戸と復興需要も伴って大幅増。

伸銅品生産量は前年比五・五％減の五万七、一二〇tと二カ月連続マイナス。

前月に続き自動車生産の悪化が原因との見解。

銅電線出荷量は、前年比一・二％減の五万八、〇〇〇tと二カ月ぶりマイナス。自動車生産の減少幅の拡大が影響したとの見解。

輸出に関しては、電気銅輸出が前年比二〇・四％増の四万三、四〇七tと大幅増加。銅スクラップは一六％増の二万九、七八八tとこちらも大幅増加した。電線、伸銅品、板条などの国内生産減少のため、輸出に向けられた影響との見解。

輸入は電気銅が二八・七％減の二、六〇〇t。スクラップは四・八％増の五、三三九t。

先月に続きスクラップ輸入の大幅増に関して好調な電気銅生産が寄与したとの見解。

銅需要に関して円安や株価急騰によりセンチメントは大幅改善されたものの、政府の経済対策などにおいて具体的な予算、それに伴う需要がまだ決定していない事や三月決算の影響からメーカー買い気薄。

銅価格に関しては、主なテーマである「米財政の崖問題」が五月末まで先送りされたことで当面リスクな展開は考えにくく、また懸念されていた中国GDPも七・九％増と八％は割ったものの予測を上回った事、さらにアベノミクスにおける日本経済の回復期待から上値は一段高の八、三〇〇ドルを予測。

下値はここ二カ月八、〇〇〇ドル近辺を推移している事から値固めをしている可能性が高く、仮に欧州債務問題の再燃があったとしても想定内である可能性が高く、押し目買いがあるとの予測から八、〇〇〇ドル以下への下落は難しいとの予測。

銅建値に関しては七七〜八一万円程度と予測している。

一月の新車販売七・八％減

軽自動車は好調で全体の四割に日本自動車販売協会連合会（自販連）と全国軽自動車協会連合会がこの程発表した一月の新車販売台数は、前年同月比七・八％減の三八万三、四九九台と、五カ月連続で前年実績を下回った。

軽自動車はホンダの「N」シリーズなどの新車種が人気を集め、一・〇％増の一五万四、一六六台と二カ月ぶりのプラス。一月として過去最高を記録し、販売全体の四割を占めた。軽以外は一二・九％減の二二万九、三三三台と落ち込んだ。

自販連は「(昨秋の)エコカー補助金終了に伴う反動減は大きくない」とする一方、先行きについては「消費増税によるマインド低下が懸念される」と慎重な見方を示している。

メーカー別では、日産自動車が一四・四％増加した一方、トヨタ自動車は一四・四％減少。ホンダも軽以外が振るわず、一三・一％減となった。